

作業療法学科

昭和大学独自の制度である「臨床教員」

作業療法学科には経験豊富な臨床教員が多く在籍しており、学生の臨床実習を支えています。

作業療法士として臨床の現場で働きながら学生に指導を行う“教育”のスペシャリストです。

渡部喬之 (所属：昭和大学藤が丘リハビリテーション病院)	臨床教員に聞きました	齋藤甚 (所属：昭和大学江東豊洲病院)
 <p>試行錯誤して考えた治療により、患者さんが良くなる瞬間が私は好きです。教科書では学べないその瞬間を、学生さんに伝えられることが一番のやりがいになっています。</p>	<p>Q1 臨床教員としてのやりがいを教えてください</p>	 <p>学校で授業を受けることも大切ですが、実習における出会いや発見は、かけがえのない経験になります。一人一人の学生が感動するような経験をできるようにお手伝いすることにやりがいを感じます。</p>
<p>知識や治療技術もちろんですがやはり患者さんの心です。ある日突然、治療を受けなければいけなくなった患者さんの心を理解することは、作業療法士として絶対に必要なことだと思います。</p>	<p>Q2 実習で何を一番学んでもらいたいですか？</p>	<p>患者さんが回復し喜ぶ姿を見ることができるとは作業療法の醍醐味だと思います。実習では、実際に作業療法を通して患者さんが変化していく過程を、たくさん経験してもらいたいと考えています。</p>
<p>答えが一つではないことだと思います。作業療法士が他の医療職と違うところは、患者さんのこれまでの生活や、価値観に合わせた治療を考える職種であり、そこに魅力があります。</p>	<p>Q3 作業療法の魅力を一言でお願いします</p>	<p>作業療法は、単に運動能力を回復させるのではなく、病気になった方の生活や生きがいを取り戻す仕事と言えます。そんな仕事ができることは、きっと自分自身の生きがいにもなり、作業療法の魅力だと思います。</p>

臨床教員は、学生一人一人の特性に合わせた“教育”を行うことができます。



渡部：始めは「病気」や「障害」に目が行ってしまい、その人の「できなくなっていること」ばかりに注目していたよね。

須田：渡部先生の指導のおかげで、患者さんも病気になる前は私たちと同じように普通に社会生活を送っていたんだってことに気がつくことができました。

渡部：そうすると「できなくなっていること」だけでなく、これまでの生活背景やその方が持っている「できること・良いところ」が見えてくるようになる。そういったことを踏まえて学生が一生懸命考えた治療方法は、時に僕たちも思いつかないような素晴らしいものになることがあるんだよ。

須田：今回、自分が考えた治療から患者さんに良い変化が見えたとき、作業療法士になりたい気持ちがさらに強まりました。

もっと詳しく作業療法学科



実習での「苦労」や「感動」をともに

臨床教員は、学内教員と同様に講師以上の職位を持つ附属病院配属の、本学特有の教員です。臨床教育場面には〇〇さんという実際の患者さんがいます。臨床実習では、臨床教員と学生は〇〇さんの作業的健康について一緒に考え、作業療法を提供します。この過程で学生と臨床教員が患者さんと「苦労」や「感動」をともにします。この経験が作業療法士を目指す学生を磨き上げます。この教育場に寄り添うのが臨床教員です。臨床教員は本学臨床教育のスペシャリストです。



作業療法学科 教授 鈴木憲雄